

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和7年2月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■ 恵那農林事務所農業普及課及び中山間農業研究所中津川支所合同成果検討会を開催

恵那農林事務所と中山間農業研究所中津川支所は、2月14日、恵那総合庁舎で本年度の普及活動並びに試験研究成果の検討会を開催し、生産者や関係機関合わせて100名が参加した。

本検討会で農業普及課は、『これから100年続くクリ産地を目指して』、『地元酒蔵に求められる新酒米「酔むすび」の産地を目指して』、『トマト産地支援の取り組み』の3課題を発表し、参加者を交えての意見交換が行われた。

参加者からは、岐阜県育成品種「酔むすび」を自分の地域でも作れるかという質問があり、新酒米品種への期待が感じられた。トマトの発表では、担い手確保について話し合われ、農業が若者に選ばれるよう積極的な呼びかけをしてほしいとの声や、農福連携の取組結果や課題について意見があった。全体としては、品目に限らず高温対策についての要望が多く見受けられ、迅速な対応が求められた。

農業普及課では、本検討会で出された意見を反映させ、生産者の需要に合った普及活動を展開していく。



【『これから100年続くクリ産地を目指して』の発表の様子】



【『地元酒蔵に求められる新酒米「酔むすび」の産地を目指して』の発表の様子】



【『トマト産地支援の取り組み』の発表の様子】

(園芸産地支援第二係)